

# 歴史を歩く 58

おおさきの歴史を旅してみませんか ②④  
 桜島大噴火とともに開かれた地域(中沖地区) ①

大正3年(1914年) 1月12日の桜島大噴火後、旧大崎村は被害を受けた牛根村(垂水市)、百引村(鹿屋市輝北)、東桜島村、西桜島村の住民114戸594名を受け入れました。その受け入れの地となったのが野方の東川、角堂、岡下、永吉の牧、中沖でした。また昭和21年(1946年) 1月の昭和噴火でも桜島から野方の桜野集落に多く人が移り住みました。桜野は桜島の『桜』と野方の『野』をとってつけられた地名であると言われてい

ます。

大正噴火では特に中沖には縁故者を頼って移住した人が多く、しばらくは小作農で生計を立てていました。中沖地区に小字名として各地に残っている『堀』は、かつての地主が所有していた土地の範囲を示す名残です。

## 1 中沖東上の田の神

昭和27年(1952年) 4月20日に奉納された。



## 2 高架水槽

昭和53年(1978年)に上水道第4次拡張で中沖地区の水圧確保のため計画され、造られたもの。

中沖地区は標高約50mの台地で、高さ22mの水槽から自然流下方式で配水されている。



## 3 中沖東の田の神

時期不明。珍しい型の田の神で、笠の形と右足を立てひざにした座り方に特徴がある。



## 4 正和の田の神

『寄贈 大野仁次郎 八十八歳記念 昭和35年1月』と銘がある。